

# さっぽろの未来まちづくり

～手稲区・地下鉄延伸～  
～丘珠空港機能強化～  
～人材流失阻止～

特別  
座談会

まちの再開発が加速している。札幌が未来永劫に輝くためには、ハード・ソフト両面での再開発・整備が肝要と言えるが、さまざまな課題も。本欄では北海道ファシリティマネジメント協会（FM協会）と、隈研吾さっぽろ未来まちづくり懇話会の共催で行われた「さっぽろの未来まちづくり」をテーマとする座談会を掲載する。  
（収録・2月4日、ニューオータニイン札幌にて）

## 手稲区まで地下鉄延伸を

藤崎 以前は年に一度こうした座談会を開催しておりましたが、今回は3年ぶりの開催となります。テーマは『さっぽろの未来まちづくり』。今回も各界の方々に参加いただきました。まずは町田副市長から札幌市としての考え、提言を。

町田 札幌市は昨年、市政施行100年を迎えました。これまで札幌の人口は一貫して増加し、現在では200万都市の

後、人口の減少を緩和しつつ、超高齢化社会に対応したまちづくりを展

開しなければなりません。現在描いている都市像は、『ひと』『ゆき』『みどり』の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろです。これにはユニバーサル（共生）、ウェルネス（健康）、スマート（快適）先端」といった重要概念を設定し、実現に向け取り組んでいるところです。再開発事業も着実に進んでいます。構想のなかには北海道電力や中央バスがある大通東1エリア、札幌パークホテルの南10

条西3エリアなどがとりわけ大きなプランとして進行中で、さらに、木質バイオマスなどの再エネを利用した熱供給ネットワークも構築されつつあります。環境首都・札幌にふさわしいまちづくりを実践しているところです。



攻や、コロナ禍によって苦戦しているもの、「食と観光、そして北方

の自然を軸として将来像を描いていく——この基調はこの先も変わらな

や情報発信を充実させ、より付加価値をつけたサービスを提供するまちに成長させなければ

して生まれた区ですが、当時は人口約3万人で、現在は約14万人にまで増加している。人口減少が進む中で、手稲

会課題の解決と魅力の向上を図る——「簡潔に言えばこういうものですが、



昨年世界の人口が80億人を突破しました。とりわけアジアの人口が増加

今まさに議論されている丘珠空港の滑走路延長をはじめとするインフラ整備のみならず、情報インフラ、金融インフラの

少が進む中で、手稲は増加しているんです。私はこうした地区のインフラ整備こそ喫緊の課題と捉えています。とりわけ

檜森企画代表 檜森 聖一氏 (Hirumori Seiei)



ポイントでしょう。それには北海道の食と観光が持つ高いポテンシャルをもっと世界に発信

藤崎 国という目線から次は区という狭めた視点で発言いただきたいと思いますが、手稲区は地下鉄延伸を目指す期成会が発足されるなど、交通インフラの整備が期待されていますね。

この構想は、「首都圏の人口を地方に移し、その地方の個性を活かしながら社



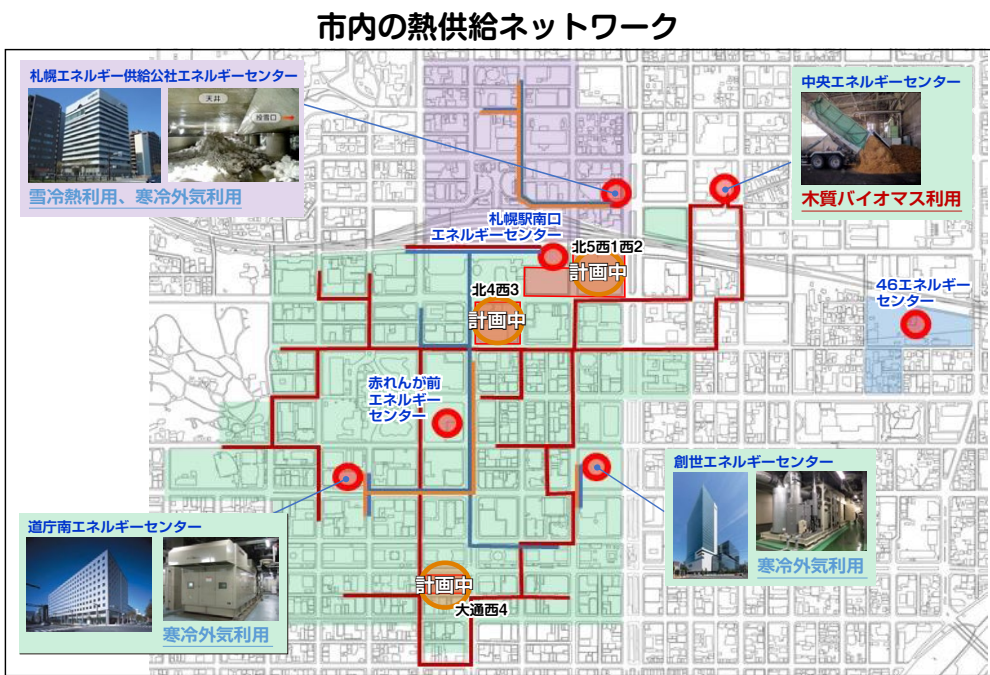
もつと世界に発信するべきで、そこで重要となってくるのが札幌の役割です。札幌が軸となつて人流・物流

松井 手稲区にフォーカスしてお話させていただくと、ご承知の通り、手稲区は旧手稲町です。1967年に札幌市と合併

この構想は、「首都圏の人口を地方に移し、その地方の個性を活かしながら社



首都圏の方々の多くは車を所有していないケースが多いことから、一定程度インフラを整備しなければ移住は進みません。ただ、これまで国は地



市内の熱供給ネットワーク

下鉄などの延伸について、地方からの要望があれば議論する」というスタンスでしたが、昨年からは、国が主体的に地域公共交通の協議の場を設ける」という方向にシフトチェンジしています。今後の展開が気になるところですね。

**檜森** 私は経済的視点から述べたいと思いますが、先程岡部さんからも話が出た丘珠空港の機能強化を最優先に考えます。あれだけの好立地に空港があるわけですから、最大限活用しない手はない。

ですが、札幌都心部から公共交通機関を使用して丘珠空港まで移動した場合、約1時間も要してしまう。こちらに関して、地下鉄延伸も含めた開発、まちづくりが急務です。札幌の経済活性化のために一刻も早く対策

を講じていただきたい。加えれば、モノやまちを「造る」ことだけに注力せずに、財政の健全化という視点を持つことも肝要です。そのうえで「住みたいまち」をつくりあげていく。まだまだ議論の余地はあります。

**「らしき」プラスで世界と向き合う**

**藤崎** ではここで、札幌を「外」から見ている田口さんにマイクを。

**田口** インフラの視点で私の立場からお話させていただくと、我々が事務所を構える東川町は、インフラが極めて整ったまちです。旭川空港まで車で約10分の立地であることから首都圏との距離も近く、水も100%天然なうえ、今取り組みが活発になっているSDGsにも積極的です。

今では「人口が増加しているまち」としても知られていますが、こうしたまちだからこそ、ハード面だけに頼る必要がない。「今あるもの」を活かす視点を重視することで、「歩いて楽しいまち」が構築されているんです。

**藤崎** 札幌のまちの印象は？

**田口** 頻繁に札幌を歩いているわけではありませんが、個人的には先程町田副市長からあったユニバーサル、ウェルネス、スマート、どれも備わっているまちだと思います。ただ、そこに「札幌らしさ」がプラスされていない印象はある。この「らしさ」という付加価値は、今後世界と向き合う都市にとって不可欠で、こうしたまちづくりが実現すれば、現在札幌市が取り組む札幌冬季オリパ

ラ招致実現の可能性も上がるはずですが。

**藤崎** オリパラの話題が出ましたので、札幌市スポーツ協会会長でもある生島会長に市のスポーツ施設について伺いたい。

**生島** まず、札幌市内のスポーツ施設を含めた多くの施設は、オリンピックを開催し、政令指定都市になった1972年以前後に建設されました。それが今、更新時期にあります。とりわけ月寒体育館は躯体が限界に近い状態

況で、早急な更新が望まれています。

**藤崎** 櫻井さん随分領いているけど。

**櫻井** まったく同感です。私も管理会社として、真駒内スケート場の製氷業務を請け負ったことがあります。設備は相当劣化が進んでいました。それに競技者の方から「施設が足りない」「練習環境が整っていない」という声も聞こえます。

もっとも、地下鉄や空港の清掃業務も担いまして、どこも改善する余地があると強く感じましたね。

施設の更新は極めて重要だと考えます。

加えると、施設を更新することで、海外に向けてスポーツツーリズムを一層発信しやすくなる環境が整う。先程岡部さんから出た「稼ぐ」というキーワードにもつながるんです。更新をひとつの「投資」として捉え、リターンを求めていく構造を構築しなければ先は見えてこない。この想いが浸透すれば、オリパラ招致もさらに現実味が増してくるはずですね。

れまで以上に「地域経済が循環するまち」が構築されることになる。

**藤崎** 観光スポットも含めて、施設は新しく造らなければならぬ？

**生島** 「新設」という角度からは、再開発事業のなかで世界的ブランドのホテルが計画されていることが注目されます。

2017年冬季アジア大会に多くのVIPが来札されましたが、世界アイスホッケー連盟会長に適切なホテルを提供することができませんでした。世界的VIPを取り込めるホテル建設によって、一層札幌に「稼ぐ力」がつくことになりそうです。

「次世代に残すため」にいま造るわけです。幸いにも、札幌には松井さんのような市議会議員や、役所、民間企業にもFMMマネージャー資格保有者がいる。これは全国的にも極めてまれです。

マネジメントには、ピルの長寿命化だけではなく、昨今注目されるテレワークやカーボンニュートラル、災害対策やSDGsを見据えたものもあります。こういった要素を意識しながら官民が一体となって新しいまちの青写真を描いていきたいですね。



▲札幌丘珠空港

**生島** もちろん、更新には費用が必要ですが、不足が指摘されている施設の更新は待たないの状況です。先程町田副市長からも話があったように、ウェルネスを実現するためにスポーツを支える

大勢の人が札幌に来てくれるだけでも必ず大きな経済効果が生まれますし、札幌の冬を世界にPRできる。新たな冬の観光スポット開発といったプロジェクトも始まれば、こ

切ですが、新しい施設を造ることも必要です。FMを活用し、50年ではなく100年続く施設を

**官民一体で人材呼び込む術を**

**藤崎** いろいろな課題に対する改善策が見えてきました。難しいものばかりですが、ソフトの面で考えられる課題は。

岡部 人材の育成、確保ではないでしょうか。まちづくりを進めるうえで人材は極めて重要な要素ですから。

町田 まったくその通りですね。現在は、道内各地の若者が札幌の大学、専門学校に入学し、卒業後は首都圏に――、という状況です。田口さんの活動拠点である東川町は、さまざまな環境が整っていることから人口増が実現しているのでしょうか。若者が定着するような経済産業構造を創ることが大きな課題です。

住まで踏み込んでくれな。これはやはり一朝一夕にはいかない課題です。ひとつひとつ丁寧に向き合っていくかなければなりません。

檜森 以前、経済同友会の活動の一環で、複数の大学に足を運び、学生に地元企業の紹介をしてきました。地元定着を図ることが目的でしたが、結果としては残念なものでした。賃金のみならず、厚生施設などの面も大きかったようです。

田口 先程申しあげた通り、東川町は人口増のまじですが、実は30〜40代の人口と比較して、高校生や大学生といった若者は少ないんです。大学や専門学校に入学するためにはまを離れる風潮はそれほど変わりないのでしよう。

に増えている要因は、Uターン。地元を離れた人が戻ってきているんです。「もう一度地元に戻って何かしたい」と思わせる魅力が東川というまちにはあるんです。札幌にも一度故郷を離れた人を振り向かせる確かな魅力があります。それに地元らしさをプラスし、上手く発信することが重要だと思います。

北海道大学の学生は、過半数以上が道外出身者です。以前は道内出身者が過半を占めていましたが、ここ十年で逆転しました。道外の方々には北海道、札幌に魅力を感じていいますから大きな可能性があります。人材確保は札幌の将来にとって極めて肝要です。まちが一丸となって知恵を出し合い、取り組むべき課題ですね。

藤崎 広い意味で、子どもたちが「札幌に行きたい」「将来住みたい」――、こうしたまちづくりを実施していくのが当協会、当懇話会の使命です。

今後は札幌で定期的にこうした座談会を開催する予定です。各専門家の方々のご意見を取り入れながら、札幌の未来をつくりあげていきたいですね。本日はありがとうございました。

ただ、それでも全体的

余談ですが、ここ最近

ございました。

一般社団法人 北海道ファシリティマネジメント協会

～利用環境を経営戦略的視点から総合的かつ統括的に企画、管理、活用する経営活動～

**FMは3つの面をもった総合的なマネジメント手法です**

- ・経営にとって全施設の最適なあり方の追求など経営戦略的な面
- ・ファシリティの最適な状態への改善など管理的な面
- ・日常の清掃、保全、修繕、サービス等への計画的・科学的な方法の採用など日常業務的な面

〒060-0003 札幌市中央区北3条西2丁目1 カミヤマビル4F TEL:011-231-4851 FAX:011-522-5032 URL:http://www.hfma.jp/